

# KTK

# あらぐさ通信

## NO. 85

後援会費郵便振替口座  
01070-7-32145  
あらぐさ後援会

編集 集 あらぐさ後援会  
編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会  
〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道42-3  
TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215



季節を感じて  
お出かけ

あらぐさがある乙訓地域は自然がとても豊かです。さくら、つつじ、もみじなど年間を通じていろいろの花や木々。川のせせらぎや、森の池。デイセンターあらぐさ2の利用者さんは、四季折々の風を体感じながら、グループに分かれてお出かけしています。

**「第2回 あらぐさひろば」**（あらぐさ後援会主催）

**10月27日(日)開催予定**

詳細は次号にてご案内します。

# 「子どもの進路

## みんなの力できり拓く

学校と「わっしょい」「そして」「あらぐさ」

あらぐさ4期生のかずおさんは、42歳。

毎日、「障害福祉センターあらぐさ」に通い、ピースの作業が大好きです。

あらぐさが共同作業所の時代から、運動にかかわってこられたお母さんに、お話をうかがいました。



### 就学して寄宿舎生活を体験 障害児学童保育へも参加

かずおさんの赤ちゃんの頃は、「おとなしい子やなあ」と、お母さんは思っていました。手元にあるものを扇型に並べたり、逆さまになっている本を、きちんと元に戻したりしていたので「かしこい子やなあ」と思っていました。

3歳の頃、言葉が出ないことから受診した京都市民病院で、自閉的傾向といわれました。

京都市内から転居して、長岡第四小学校の障害児学級に入学。4年生から向日が丘養護学校（現支援学校）に転校しました。障害児の学童保育、「わっしょいクラブ」の活動にも参加しました。

「わっしょいクラブ」は、はじまって2

年目で、親も当番の日は、子どもたちと一緒に、夏の炎天下を善峰寺まで必死で歩いた懐かしい思い出があります。「髪の毛まで焦げた！」と、みんなで笑い合ったこともありました。

養護学校では、中学部から寄宿舎生活を経験し、高等部では1年間入舎しました。この経験が、後になって、「あらぐさ」での「お泊り」の力になりました。

### 目が見えるようになりました

#### 白内障の手術成功

高等部のころから、イライラして自分の顔を叩くなどの自傷行為が出はじめました。あらぐさでは、職員の紹介で草津市にあるびわこ学園の医療センターまで治療に通いました。

あるとき、一緒にテレビを見ていたお姉さんが、眼の色が変わっていて、「見えていないのでは？」と気づきました。自傷行為が原因で白内障になっていたのです。

滋賀県立医大病院に入院し、全身麻酔を受けて、手術は無事成功しました。

「目が見えるようになって、今、ピースでの細かい仕事もできて、ほんとうによかった」と喜んでおられます。

親子3人が電車で通院するのは大変なことです。電車に乗ると、他の人の服に付いているごみや飲み物が気になり、手を出してしまうので、両親は緊張の連続でした。最近、糖尿病があることがわかり、好きなお菓子や油ものは摂らないなど、家庭や、昨年の7月から入居したケアホーム「いろどり」でも配慮しています。

### お父さんもお姉さんも大好き

#### 家族みんなで

お父さんはかずおさんの小さいときから、かずおさんと一緒に寝ていました。かずおさんも、お父さんが大好きです。

かずおさんを自転車の後ろに乗せてよく走りました。おまわりさんに「一人乗り」を注意されてしまい、「この子は体が不自由で・・・」と説明したとたん、かずおさんがスタコラと歩き出したというエピソードも。

昨年、お母さんが体調不良で1カ月間入院したときも、お父さんがかずおさんの世話をしてくれました。

2人のお姉さんも、とても可愛がってくれました。いまでも、かずおさんの好きなアニメの音楽や、S M A Pや嵐の曲を、ラジカセのテープに入れてくれます。

### 長い間 親の会の運動担う

#### リハビリで健康に

お母さんは、「手をつなぐ親の会」の会長を長く務めました。会員への連絡のため、乙訓全域の学校を自転車でまわりました。



小さなピースの穴に糸を通していきます。

「親の会」の進路の運動を進める中で、「あらぐさ」をつくる運動に参加しました。

あらぐさの運動の中では、古紙回収やバザーを毎年取り組み、いつも「どんなに障害が重い人でも断らずに入れるところを作ろう」と話していました。

お母さんの趣味は、編み物や洋裁です。むかしは男物のスーツも作ったという腕前。かずおさんの七五三のスーツも作ったそうです。

今は、健康上のことで気をつけなければならぬことが多く、これまで出かけていた旅行もおっくうになりましたが、元気な生活をとりもどそうと、毎日、治療やリハビリにがんばっておられます。

今では当たり前になった障害児学童保育や親の運動を、かずおさんのお母さんの世代が始められ、その貴重な経験とお話を聞かせていただくことができました。

【前田幸子・真殿尊子】

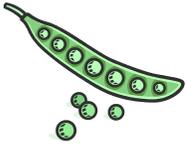


# わたしたちの育てた「きたあかり」は とっってもおいしーよ！

デイセンターBグループの野菜づくり

私たちBグループでは、毎年あらぐさ内にある畑やプランターを使っていろいろな野菜作りをしています。

これまで、さやえんどう、きゅうり、プチトマト、ししとう、にんにく、だいこん、さつまいもなどの苗を植えて育て、収穫したものをおやつ作りの時間に調理して食べたり、販売にでかけたりしました。中でも、昨年度は連作になるので見送っていた「きたあかり」のじゃがいも販売が好評で、(ほくほくして)おいしーいのです！(リクエストの声も頂いており、3月から畑で植えて6月頃の収穫を目指して育てています。



## 工夫をして みんなで土づくり

まだまだ手入れが必要な畑の土。昨年植えた大根は土がかたくて成長せず、「ん？これは大根なのか？かぶの間違いで…」というくらい小さな大根になってしまいました。栄養のある良い土作りを目指さなければ良い野菜作りはできないなあ、と実感して職員もまだまだ勉強中です。

活動では、まず耕すところから。クワで「えい！」と力強くすくったり、スコップを使ってじっくり山を作ったりしてみたり、牛乳パックの中に土を入れてそれを両手で持てばさっと力強く撒いてみたり、そのまま手を使って土の素材を確かめながらほべしたり、とやり方は



様々です。通りかかったかたに「すごいね」と声をかけてもらうと、さらに「よし！」と頑張る姿もあります。

このようにして耕した畑に、買ってきた苗を植えます。創作活動で作ったお手製の看板をたてて、目印をつけます。

最近では苗の手入れや草むしりなど、お気に入りのCDをセレクトして（中には演歌を聴く方も）BGMを聴きながら活動しています。活動の「しめ」には密かに植わっているハーブを摘んでハーブティーを飲んでほっこり。他の活動をしてきた利用者さんも匂いをかぎつけて「寄せて〜」と合流することも。

今はじゃがいもの葉が大きくなってきて、空き時間に「水やりしてくるよ〜」と他の苗と一緒に水やりを買って出てくれる方もおられます。今年のじゃがいもはどんなできになるのか、今からわくわくごきごきです。



## 地域販売で

### 交流とつながり

収穫した野菜は、毎年販売に行かせていただいている社会福祉協議会の職員さんのもとへ販売に行きます。活動で作ったものを通して人との交流とつながりを大事にしています。何度も行かせて頂いていることもあり、利用者さんも覚えてきているようで、しっかりした足取りで野菜の乗った台車を押して行きます。

お金のやりとりでは、いただいたお金をまた返却：「あれ？タダになっちゃうよ、いいの？」と職員さんに突っ込まれる場面も。「このあいだのおいしかったし、またきてね」「ごろうさま」と声をかけていただきながら販売経験を積んでいます。

## 一人ひとりの

### 楽しみを大切に

野菜作りの生産量は多くありませんが、利用者さんのペースでじっくり丁寧に、



楽しむことを大事にしながら、これからも自然のものに触れ、「みてみて、できた！」「水を触るとびしょびしょだ〜、でも触ってみたい」「土の感触って気持ちいいなあ」など利用者さん一人ひとりの楽しみを持って畑活動に取り組んでいき、社会とのつながりを作っていけたら、と思っています。

「第2回あらぐさひろば」など  
25年度事業計画が決まりました  
160万5,985円を法人に寄付

4月20日 後援会総会開催



4月20日(土)にあらぐさ後援会の総

会が開かれました。「24年度活動報告・会計報告・監査報告」「25年度事業計画・予算案」の議案は承認されました。

◆あらぐさ福祉会へ施設設備資金として寄付

「あらぐさ支援募金」一四〇万五九八五円

「あらぐさ後援会会計」二〇〇万円

◆25年度の目標

「あらぐさ支援募金」二〇〇万円

会員・支援者

一〇〇〇名

◆第2回「あらぐさひろば」

10月27日(日)開催

【25年度役員】

〈会長〉野々下靖子

〈副会長〉中川千

津子・増田康夫 〈事務局長〉大槻昭  
〈役員〉栗野賢・稲葉薫・角根子・永  
崎靖彦・中島悠太・松村誠・真殿尊子・  
丸山彰子・三谷文菜・安武真理 〈会  
計〉丸岡正子〈会計監査〉大江文子・  
宋明子 〈外部監査〉中野修

あらぐさの歩み学ぶ

総会2部の催し

議事終了後、「通信にみる、あらぐさの歩み」のテーマで学習会が行われました。

あらぐさの基盤作りに関わってきた佐名木さん、松村さん、栗田さんから当時の「あらぐさ通信」をスクリーンに映しながら解説してもらいました。

あらぐさ通信は一九八六年七月十九日に第1号が発行され、四名の入所者が元気に通っていることを伝えていきます。その後、入所者さんの様子、運営資金作りのバザー、行政への要望書活動、地域活動の様子、作品・製品作り等々あらぐさの活動、発展とエピソードが話されました。

報告の後、若い職員さんから「歴史がわかった」「これからがんばっていきたい」などの感想発言がありました。

平成25年度あらぐさ後援会予算書

収入		支出	
繰越金	121,115	あらぐさ通信経費	200,000
会費収入	1,000,000	事業費	200,000
事業収入	50,000	事務費	100,000
		予備費	121,115
		法人寄付	550,000
計	1,171,115	計	1,171,115

平成24年度あらぐさ後援会会計決算報告

収入		支出	
項目	決算	項目	決算
繰越金	128,382	あらぐさ通信経費	224,482
会費収入	686,000	事業費	240,629
事業収入	45,529	事務費	73,744
雑収入	59	予備費	0
		法人寄付	200,000
計	859,970	計	738,855
収支差額		121,115	

平成24年度あらぐさ支援募金

個人326件・団体20件	1,405,985円
--------------	------------

支出の内 200,000円はあらぐさ福祉会への寄付  
収支差額 121,115円は25年度会計へ繰り越し

## あらぐさと私

### 自分がもっと成長したい

障害福祉センター職員  
中島悠太さん



あらぐさで働き始めて、今年で4年目になる中島悠太です。私は小さいときから一人でいることが多く、人と接する時も緊張してしまっ子どもでした。そんな

私ですが、大学生の時、学童保育サークル「がんばくラブ」に入ったことで大きく変わりました。元気いっぱいの子どもたちと過ごすのはとても体力がいるのですが、クタクタの体とは裏腹に、気持ちは晴ればれとしている自分に気づいて、将来は人と関わる仕事をしたいと思うようになりました。

今はデイセンターあらぐさ1のBグループの職員となり、創作活動や、音楽タイムと一緒に歌を歌ったりしています。絵の具で描いた絵を「できた！」と笑顔いっぱいに見せてくれる姿や、音楽タイムで好きな歌になると立ち上がって、大きな声で歌う姿、毎朝行っている朝の会で職員と手を叩きながら満面の笑みで挨拶をされる姿など、利用者さんがキラキラ輝く瞬間を目にすることがあります。

私はこの輝いている利用者さんの姿を見るのが大好きです。「人ってこんなに輝けるんだ。すごい！」と、少し感動してしまったりもありません。そして、そんな利用者さんと接しているうちに、気付いたら元気をもらっている事が沢山あります。人と関わる仕事を選んで良かったと思う瞬間です。

今、昔の自分を思い返すと本当に不思議な気持ちになります。いつも人と話すのに緊張してしまったり、自分の殻に閉じこもっていた自分が人と関わる仕事をしている。そして、利用者さんと接することで色んな事を勉強させてもらっていると感じています。これから自分自身もっと成長して、利用者さんのいきいきとした姿がもっと見られるように頑張っていきたいと思えます。

## 平成25年度 あらぐさ後援会 会費納入と「あらぐさ支援募金」のお願い

あらぐさ後援会費	個人	1口	1000円
	団体	1口	2000円
あらぐさ支援募金		1口	1000円

\* 支援募金は、あらぐさ福祉会がすすめる「暮らしの場」づくりの施設整備を恒常的に支援することを目的としています。

同封の振込用紙をご利用ください。

ご入金と行き違いになりました際は、ご容赦ください。



後援会への加入・募金  
ありがとうございます

ご協力いただいた方々

24年12月16日～25年3月31日 敬称略・順不同

足達菜々絵	佐藤 光寛	東田 克祥
天野 きみ	佐木良実	氷川 千津
栗野 賢	佐野 諦顯	平野みどり
生路 智子	塩田 彩	福見 厚子
石井 憲生	杉谷 律夫	福本 喬
石橋 雅子	関 剛	藤井 俊一
伊丹 路恵	節田 もと	藤村絵梨子
一鬼 美紀	反橋 滋夫	二家 知砂
市瀬 学	高橋 征吾	細野 和子
伊藤 弘紀	高橋 明美	本田 章子
因幡ひえみ	建山 昌子	前野 久子
井上世津子	田中 真理	榭井 良子
今井 和子	田中 裕	町田 摂子
今井 三郎	谷口奈緒子	松家 隆子
植田 進	田村 光春	松島 朱美
上野 良	長 誠一郎	松村 誠
浦上 美樹	長 理恵子	松山 幸次
江川 哲	津田 拓也	丸山 彰子
大江 恵子	津田 二キ	水嶋 猛
大木 雄大	寺島 昌洋	三橋 眞子
大橋 祐子	都出とし子	宮本 史朗
小国 祥子	東宮 健史	森 純子
垣内 悦奈	富島ますみ	森上 郷
梶尾 捷次	富田 孝子	森下美代子
金森たえ子	中川 慶子	森本 邦子
河原 克美	永崎 靖彦	八木千代子
草野 廣	中島 悠太	安井 鈴美
小坂江梨子	中田 孝子	山下 紀子
後藤真由美	中山加奈子	吉永 和子
崔本 鐘光	西村久美子	吉永 安昌
佐伯 敏子	西山俊太郎	渡辺津也子
桜田 吉昭	波多由紀子	
佐藤 敦子	濱川 君代	

安藤歯科医院 安藤純夫  
要建設株式会社代表取締役社長 三輪泰之  
金原医院 金達龍  
長岡天満宮  
日本基督教団西が丘教会  
ばんだ企画  
有限会社 ヤスイカメラ

## たくさんの署名・カンパ ありがとうございました

前号にてお願いした、「きょうされん国会請願署名とカンパ」に添えて、あたたかい激励のメッセージを届けていただきました。これを励みに私たちもがんばります。

お寄せいただいたメッセージの一部を紹介します。

■ご活動には、いつも感心しています。署名依頼当方高齢で足腰不自由で、この前までは頂きに歩きましたがもうその元気がありません。申し訳ありませんがカンパだけで御許し下さいますように。益々の充実出来ますようお祈り致します。

■施設の運営等で日々お忙しいことと存じます。社会保障の充実を実現させたいですね。今後とも微力ながら協力させていただきます。

■なかなか春が来てくれませんか。でも皆さんの笑顔が目に見えられます。がんばりましょう。ひどい政治に笑って立ち向かいましょう。

■日頃からたいへんな条件の中でがんばっておられる皆様 本当にご苦労様です。少しでもカンパは生協の方へ送らせていただきました。

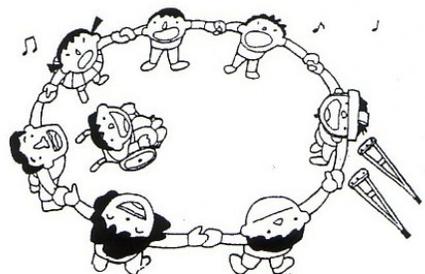
■いつもご苦労さまです。「あらぐき通信」毎号楽しみに読ませて頂いてます。署名遅くなりましたがよろしくお願い致します。

### 集まった署名数とカンパ金額

5,246筆 144,501円

5月21日現在

国会への提出、国会での審議等については、あらためて報告させていただきます。



1992年6月5日 第3種郵便物承認(毎月1回25日発行)  
2013年6月23日発行 KTK増刊通巻第3994号 発行  
所 京都障害者団体定期刊行物協会 〒602-8143  
京都市上京区堀川通丸太町下ル中之町519 京都社会福  
祉会館4階 京都難病連内 発行人 高谷修 頒価50円  
(購読料は会費に含まれています)